

# 目 次

## I. JIA会員によるボランティア活動

現 地 報 告 .....	1
---------------	---

## II. JIA都市災害特別委員会調査

総 括 報 告 .....	11
---------------	----

構 造 班 報 告 .....	53
-----------------	----

設 備 班 報 告 .....	73
-----------------	----

住 宅 班 報 告 .....	85
-----------------	----

都 市 計 画 班 報 告 .....	109
---------------------	-----

## III. 緊急アピール

# 自然を恐れ大切にした 都市づくりが重要

J I A都市災害特別委員会

## 池田武邦委員長が提言

新日本建築家協会（J I A）は、阪神大震災の本格的調査と将来の建築、都市のあり方に関する提言をまとめる組織として、池田武邦氏（日本設計相談役・名誉会長、池田研究室代表）を委員長とするJ I A都市災害特別委員会を設置した。池田委員長は13日夕、記者会見し、「阪神大震災は、社会の要請といいながら経済、効率を優先させ、大自然とのかかわりを疎んじた都市をつくってきた建築家に対する試練である」と戒め、「自然やその土地の歴史を大切にした都市づくりが重要である」と「池田哲学」を語った。



## 経済、効率優先を反省

今回の震災は、戦後の都市づくりにかかわってきたJ I Aの会員に天が与えた試練である。建築家は、社会の要請という名の下で、

経済、効率を優先させ、大自然とのかかわりを疎んじてきたことを反省しなければならぬ。建築家に下された厳しい戒めと受け止めている。営々と築かれてきた近代都市は、大自然の一つの現象により一瞬のうち

に瓦解し、五千余の人が命を、二七万余の人が家を失った。人間を育む大自然の空気や水を汚し、山を削って海を埋め、自然を壊しながら近代都市をつくってきたことを大いに反省すべきだ。人間は自然を恐れる心を失っていたのではないかと。建築家は自然を大切に

する思想をもって、まちづくり

に貢献しなければならぬと痛感している。ポートアイランドでは建物の被害は少なかったが、配水管が壊れて水が出ない

ため、住むことができない状況にある。水は人間が生きていく原点であるのに、蛇口をひねれば水が出るという文明の便利さにわれわれは

あぐらかき、水を大切にすることを忘れていた。昔は井戸の水が生活を支えていたが、水質が悪いという理由で、消毒された水道の水を悪くしていたのは人間に

ほかならないの……。

## 神戸の復興プロセスは 都市の将来占う道標

自然は人間社会と違い、公平だ。同じ震度の地域で

もつぶさに見ると、壊れた建物、壊れなかった建物それぞれには理由がある。「木造はためて、プレハブは大

丈夫」という表面的な調え方は危険だ。本格的な調査を行う必要があるが、技術的側面だけの解決による画一的な防災都市になることを恐れる。

土地には固有の歴史、風土、そこで暮らしてきた人間の生活の歴史がある。その復興プロセスは、日本の都市の将来を決定づけるマイルストーンとなるだろう。われわれは建築家だけでなく多くの人とネットワーク

の七十一年間に二十回、戦後では十四回の大地震が発生している。平均すると三年の割合となる。これだけ、大自然が警告を発していたにもかかわらず、市のあり方を提案したい。

関東大震災から現在までの

の復興プロセスは、日本の都市の将来を決定づけるマイルストーンとなるだろう。われわれは建築家だけでなく多くの人とネットワーク

の七十一年間に二十回、戦後では十四回の大地震が発生している。平均すると三年の割合となる。これだけ、大自然が警告を発していたにもかかわらず、市のあり方を提案したい。

の復興プロセスは、日本の都市の将来を決定づけるマイルストーンとなるだろう。われわれは建築家だけでなく多くの人とネットワーク

## はじめに

■ J I A本部は震災発生に際して、兵庫県南部地震対策会議（委員長；村尾成文）を設置して、様々な緊急対応策を協議実施することにした。また、J I A近畿支部は、震災発生直後から震災対策委員会を設置して、緊急対応体制の整備と積極的なボランティア活動を開始した。J I Aの緊急対応策の主体を成した建築ボランティア活動は、行政サイドによる被災度判定の対象とならなかった被災木造住宅を中心にした診断・相談業務である。このボランティア活動は近畿支部が中心になって、それを全支部をあげて支援することになった。その内容は後記するとおりである。

また、兵庫県南部地震対策会議の提言を受けて、J I A本部はJ I A都市災害特別委員会（委員長；池田武邦）を設置して、長期的、且つ、全国的視野にたった調査・提言をおこなうべく地震発生直後から活動を開始した。

■ J I A都市災害特別委員会は、第一段階として震災の実態を全体的に把握するための初動調査をおこない、第二段階として課題毎のよりいっそうの調査・分析と他団体との連携をおこない、被災地区の復旧、全国的視野に立っての提言、一般市民への啓蒙等をおこなうべく、活動をはじめている。

■ 本報告書は、建築ボランティア活動の報告と、J I A都市災害特別委員会の初動調査の報告で構成されている。2月17日に東京で行った緊急報告会での報告書に、その後若干の加筆訂正をおこなってある。なお、建築ボランティア活動に関する近畿支部の震災対策委員会の体制は報告の中にあるとおりであり、ボランティア活動に参加していただいた方々の名前については誌面の都合上割愛させていただいた。J I A都市災害特別委員会の第一段階の初動調査に参加された方々、及び、第二段階の体制は下のように構成されている。



# J I A都市災害特別委員会・調査団

(委員長)

池田武邦 (株)日本設計・池田研究室

(幹事)

村尾成文 (株)日本設計

(委員・調査団メンバー)

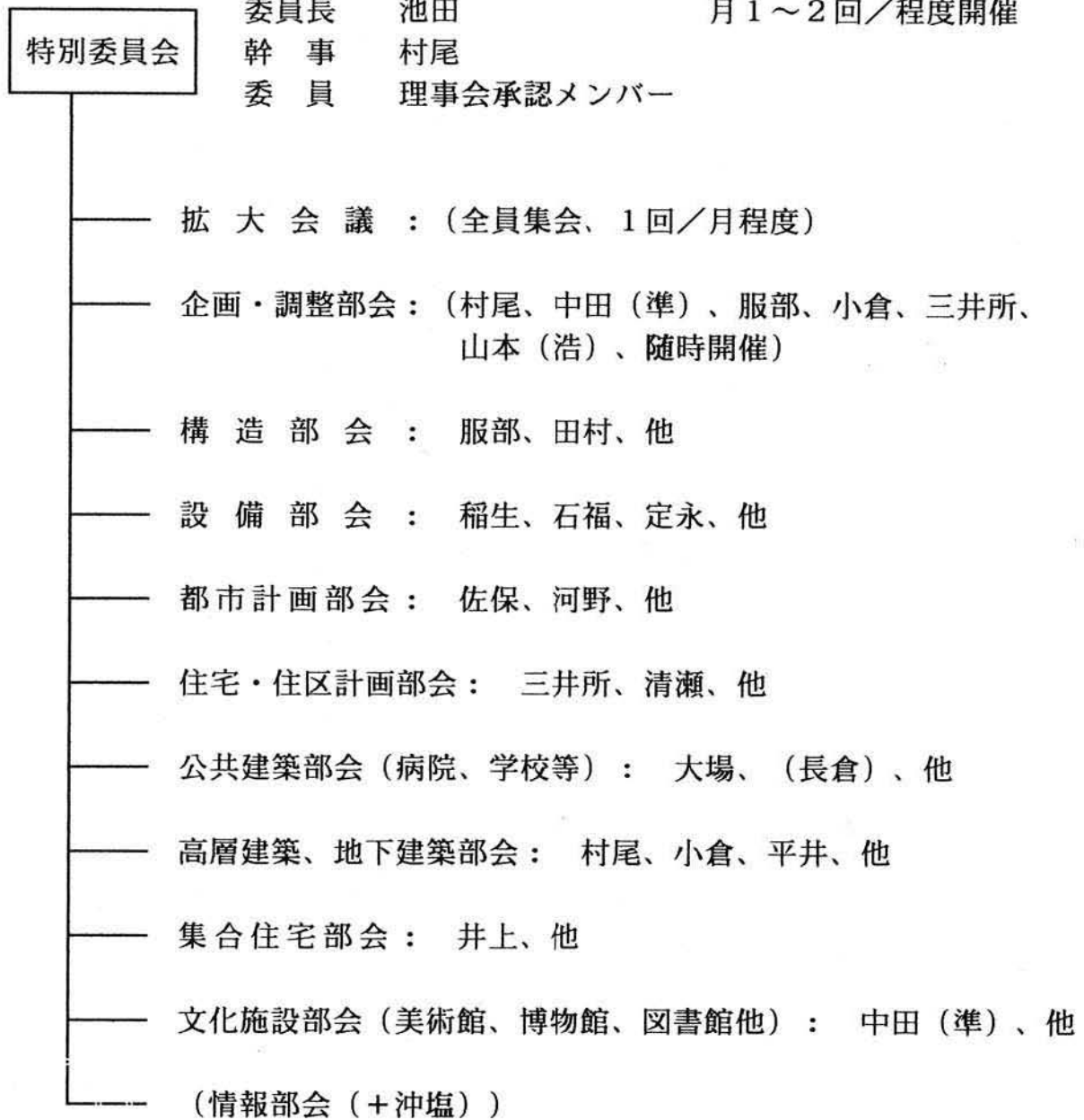
服部 範 二	K R建築研究所	小倉 善 明	日建設計
中田 準 一	前川建築設計事務所	清瀬 永	清瀬建築設計事務所
三井所 清典	アルセッド建築研究所	田村 泰 顕	織本匠構造設計研究所
稲生 宏	総合設備コンサルタント	佐保 肇	日本設計
山本 浩 三	山本浩三都市建築研究所	定永 哲 雄	日本設計
河野 進	河野進設計事務所	大場 則 夫	共同建築設計事務所
井上 博	井上博設計事務所	平井 堯	日建設計
竹ノ内洋一郎	竹ノ内建築設計事務所	大倉 靖 彦	アルセッド建築研究所
人見 泰 義	日本設計	安達 和 男	日本設計 品川設計室
藤井 誠 人	建築モード研究所	岸 崎 隆 生	日欧設計事務所
山崎 力 夫	筭建築設計事務所	長谷川 正 雄	長谷川正雄設計事務所
米田 耕 司	米田耕司建築研究室	金子 修 二	金子設計
岩田 穰	多摩設計	池永 辰 雄	池永設計事務所
古屋 重 征	田辺洋建築設計事務所	松島 哲 装	松島哲装建築研究所
中田 隆	K R建築研究所	脇坂 和 洋	K R建築研究所
石福 昭	早稲田大学工学部建築学科		
沖塩 莊一郎	東京理科大学工学部建築学科		

J I A 都市災害特別委員会

1995年3月8日

1995年4月13日訂正

体制



注1 部会は、必要に応じて設置する。

注2 シンポジウム・視察団開催のために、広報委員会、事業委員会の協力をうる。

注3 情報交流・情報管理・国際対応・ボランティア体制整備等については、企画調整部会で検討のうえ、必要な場合は部会を設ける。